

◆企画：第125回学術大会／委員会セミナー（教育問題検討委員会）
「補綴歯科専門医研修プログラムはどうあるべきか —欧米のプログラムに学ぶ—」

補綴歯科専門医研修プログラムはどうあるべきか？

—欧米のプログラムに学ぶ—

座長抄録-2

魚島勝美^a，木本克彦^b

What the program for prosthodontic specialist development should be?

-The programs in western countries as references-

Katsumi Uoshima, DDS, PhD^a and Katsuhiko Kimoto, DDS, PhD^b

終わりに

セミナーでは以上の内容を受けて討論が行われ、その結果、本セミナーのまとめとして、今後の本学会が補綴専門医プログラムを策定するにあたって考慮すべきいくつかの課題が提示された。具体的には以下の通りである。①患者が求める補綴専門医像を患者の目線で検討する必要があること。②つまり大多数の患者は一般的な固定性義歯や可撤性義歯に関する質の高い治療を求めており、このような観点からは、補綴治療全般の専門医と狭い領域の専門医（特殊領域専門医）とを分ける可能性も検討すべきこと。③したがって、補綴歯科学がカバーすべき診療内容を総花的に包含するプログラムは現実性および実現性を欠くことになる可能性があること。④補綴治療に関する技能評価は非常に困難であるが、患者が求めているのは直接的には高い技能であることから、補綴歯科専門医の試験方法と評価方法を慎重に検討する必要があること。また第三

者による Accreditation を目指すにしても、学会自身による認定を行うにしても、試験の透明性や客観性を意識する必要があること。⑤補綴歯科専門医の継続的な質保証を行うためには、サイトビジットの可能性も視野に入れること。同時に更新制度のあり方についても検討すべきこと。⑥各歯科大学・歯学部が提供する研修医・大学院プログラムとの連携を意識する必要があること。⑦診療所歯科医の専門医取得についても一定の配慮が必要であり、その方法については歯科医師会との協調が重要になること。

専門医認定の主体は本来第三者機関であるべきであるが、一方で、一定の基準を満たす補綴専門医プログラムを担保する自律性も必要であり、このプログラムに従い専攻医の研修を行っていくのは本学会の大きな責務と考える。今回のセミナーを通じて提示された課題については、多くの会員による問題意識の共有と協力が必要不可欠であり、このセミナーがわが国における補綴歯科専門医プログラムのあり方や専門医制度について考える機会になれば幸いである。

^a 新潟大学大学院歯学総合研究科口腔健康科学講座生体歯科補綴学分野

^b 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔機能修復学講座咀嚼機能制御補綴学分野

^a Division of Bio-Prosthodontics, Department of Oral Health science, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences

^b Division of Prosthodontics & Oral Rehabilitation, Department of Oral Function and Restoration, Graduate School of Dentistry Kanagawa Dental University